

第24回 北関東キリシタン殉教者顕彰祭

講演 「館林・邑楽地区のキリシタン遺跡」

2011年9月23日（祝）

カトリック太田教会

講師

群馬東毛地区キリシタン足跡探しの会

カ石 泰子（カトリック桐生教会）

《発表の内容》

邑楽町の隠れキリシタンについて

1. 隠れキリシタンの生活
2. 言い伝えから物証へ
3. 隠譜
4. いかに関憲の目をくらませて信仰を護り続けたか

〔はじめに〕

北関東隠れキリシタン顕彰行事の一つとして、太田教会で小さな講話をいたしました。

前半は東京水産大学（旧名称）名誉教授・半澤 保氏による群馬県館林を中心とした格調高い講話でした。

後半を浅学にも関わらずお引き受けし、邑楽町の隠れキリシタンについて僅かお話をさせて頂きます。

「隠れキリシタン」という言葉は差別用語なので、避けるようにとの司教様のご指導ですが、名誉な呼び名でもある事と他に適当な言葉を知りませんので、使用させていただきます。

1. 隠れキリシタンの生活

注）文書の中の画像をクリックすると、大きな画像が出ます。

1549年文化的大革命ともいえるキリスト教の伝来があり、織田信長の信頼を受け宣教師達は精力的に教えを広めました。

キリスト教は日本の西から東へ瞬く間に伝播し、北関東にもキリスト教を信じる人々が増えていきました。

旅芸人、行商人、官僚達も宣教に貢献したであります。勿論司祭たちは身を削って働きました。

豊臣秀吉の治世になると、カトリックの素晴らしさを認め教会を立てることも信仰も許しはしたものの、信者の偉大な力に恐れをなしました。教理は秀吉の弱点を突くものであり、逆鱗にふれ恐ろしい弾圧が始まり禁教令が発布されました。

1587年（いい子やなあ、国にお帰り）宣教師の国外追放、1597年（いっこくな秀吉）26聖人の処刑、最も恐れたキリシタン大名の台頭。

人は虐げられる程精神的に強くなります。

邑楽の平地林に静かに暮す弱々しい農民は、お役人の命令どおり、その日一日をやっとの思いで暮らしていたと思われま

す。「高札」には「農民は米を食うべからず。豆、芋は災害に備えて乾燥し、普段は山菜、芋のつるや葉、木の実を食せ。田んぼに草を生やしてはならず、畦にも野菜を植えよ。川原には油菜を、土手には葛くずを植えよ。夜なべして働け。酒、お茶を禁ず」。

お茶は現在のものとは全く異なる芋や豆の葉、薬草を煎じたものですが「お茶の時間」が無駄という。

おまけに「こうして働き蓄えれば年貢を納めやすくなり、百姓ほど安穏な身分はない」と。なんと非人間的な条文であることよ。

邑楽の村民は殆どが貧農であったでしょう。カトリックの教えこそ辛い日々一度に昇った太陽と月（永遠の生命）。極貧は「清貧」のお恵み。キリストの貧しさ、聖フランシスコの徳。人々の生活は大きく変わりました。初代教会の信者と同じく互いに愛し合い、助け合い、苦しみを共に担って感謝に満ちた共同生活であったでしょう。真面目に良く働き温かな人柄は社会のお手本でした。彼らは宣教を忘れませんでした。其処へフランシスコ会の宣教師やイルマンが訪れると信者の喜びは爆発的でした。宣教師は聖霊を運びイエズスご自身を受け



当時キリシタンが逃げ込んでいたバテレン山

てくださる方だからです。

宣教師の指導で「さるがく」と今でも地元で呼んでいる「聖堂」が造られ、治水工事、太陽暦による暦などの天文学、医学、薬学、冶金等画期的な進展がありました。

今もその業績を残す「薬師堂跡」、「バテレン鉄で作った44.5cmの刀」、不思議な「バテレン大日如来像」、墓石等に刻まれた「隠譜」が残されています。

石の寿命の尽きぬ間に保護したいと強く願っています。邑楽のキリシタンは群馬県では他に類の無い質と量を有しています。

今まで邑楽は、他所に知られていませんでした。川島潤二先生や厚川小一先生が声を限りに、世に訴えてこられました。聞く耳を持つ人は無に等しく、厚川先生は2011年に逝去されました。邑楽の事実を知った我々こそ、大切なご先祖の信仰を次代に何らかの形で残していかなければならない義務があります。



バテレン大日如来像

2. 言い伝えから物証へ

「証拠がなければキリシタンの物、またはキリシタンがここに生きていたと認めない」と言うのが一般論ですが、隠れキリシタンの場合は他の歴史上の事柄のように検証できない難問があります。

それは「隠れキリシタン」の名のように、密かに身を明かさず信仰を護ったので、キリシタンとしての証拠が発見されれば、官憲によって前後七代の一族が処刑される決まりがありました。庄屋や地方役人はこぞって「当郷にキリシタンは一人として御座無く候こと申し上げ候」と言う古文書を残しています。(藤川庄屋、3通)

13年前(1998年)厚川先生は開口一番「ここには夥しいキリシタンの足跡があります。しかし、それを誰も真に受けて呉れません。言い伝えも誰も信じません」と。そして「どうぞ後を継いで働いてください」と仰いました。その意味が13年かけて分ってきました。

邑楽について最初のお話は「一夜にして光善寺村が消えた」でした。これと同じ事を何人かの長老が話されました。言い伝えが民話の類と思っていました。次第に的が絞られ、「光善寺村なくして邑楽なし」と考えるようになりました。図書館に日参して調べる事10余年、たった一枚の写真が大きな働きをしてくれました。太田教会のM氏が撮影された古文書の中にあつた「倭節用袋改定」でした。

これは早い話が「税金の二重取り」ってこと。愚かにも歴史的なことや寺人別帖しか探らず税金に気づきませんでした。「改定された(つまりもっと重くなった)節約金(納税の何割かを更に加える)に従った集金袋の意。「盗人猛々しいとは為政者のこと」といきんでみて「ごまめの歯ざり」か?

13年の悪戦の末、1668年8月!ここでプツリと光善寺村の記録が消えている。個数24戸、114人、名主半兵衛。館林藩の弾圧が最も激しかった頃。

この文字を見た時、「わかったぞ~!」と比重を発明したピタゴラスがお風呂から飛び出して裸で町中を駆け回った喜びを実感しました。ピタゴラス君おめでとう!そして言い伝えと

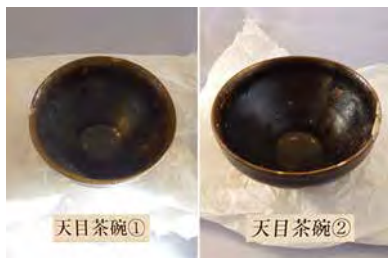
されてきた「光善寺村の消滅」は幻ではなかった事を共に喜んでね。

さて、次なるはこれを記した古文書探し。苦しみは忍耐を生み、忍耐は希望を生み、希望は叶えられる。聖書の言葉ですが信じられるかしら～？

邑楽には「バテレン橋」があります。小さなコンクリート製です。これはかつて150m程離れた所にあった物を心篤い方のご尽力で名前が残されました。調べたところ、日本に唯一の名前、これぞ我らの偉大なる「バテレン橋」。キリシタンここにあり！



そしてバテレンの森から出土した「天目茶碗、ギヤマンの聖水ビン、洗礼用か大きなお皿」どれも一般人は持てない高級な品々。その宝物には館林城から消えた「嘉兵衛」の姿が映ります。



もう一人、たった88cmの100kg足らずの石像。

東武小泉線の至近距離に一人寂しく立って、電車が通るたびに貧乏ゆすりを強いられ、ある時振動に耐え切れず台座から転落。怪我が無くてよかったけれど、風雨による劣化は激しく、彫刻も痛んできたので、これも13年かけてやっとK氏のご尽力と太田教会の金神父様のお陰で最適な所に安置されました。



線路際のバテレン大日如来像

その名もゆかし「バテレン大日如来」。この方は強力な魅力で私を引き付けました。以来トリコになりました。なんとか文化遺産として承認されますように！

邑楽にキリスト教を運び宣教し猿楽で多数の信者を生み育てた大恩人です。

バテレン大日如来像は、「司祭像」と命名されましたが、その後の考察により、デウス（神）そのものであると私は考えています。



太田教会に安置された司祭像

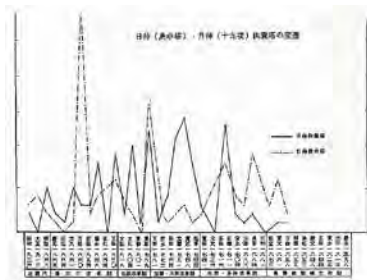
3. 隠譜

この項目は現在、記述中です。後日このページに追加します。

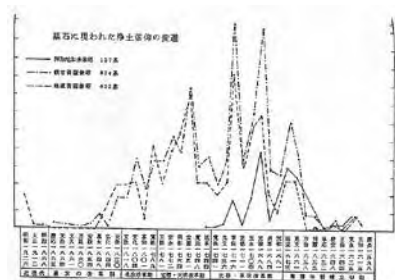
4. いかに官憲の目をくらませて信仰を護り続けたか

江戸時代は八百万の神が流行し翳の頭にも願をかけたほど。平安時代に始まった「庚申講」^{やおよらず}「二十三夜講」、これが力強いキリシタンのみかたをしてくれました。

「庚申様」は「お猿待ち」とも言われ、申の日、夕方4時から朝4時まで正装し沈黙を守り祈り続ける。若し居眠りすると体内から「三尸の虫」^{さんし}が這い出して、天帝にその人の罪を告げ口する。庚申像は6本の腕を持ち6つの武器をもって悪に立ち向かい決して負けない子供の神様。中々の財産家であるが錫杖にはれっきとした十字が彫ってある。可愛い裸の足で踏みつけているのは三猿。悪に対して、または仏教に対して「見ざる、聞かざる、言わざる」を表わしている。「青面金剛」が正式の名前。男性のみの祈りの集会であり一族郎党を中心に行われる。厳粛なごミサに準ずる祈りであり、ある部落では正面に十字架を飾っていた。



庚申塔・十九夜供養塔の変遷



墓石に現れた浄土信仰の変遷



神明宮境内の庚申像

処刑の厳しかった年の1、2年後は庚申塔の建立が多いのが分ります。

女性は「二十二夜、二十三夜講」

この講のシンボル如意輪菩薩は仏陀の身分の高いお弟子さんなのに何故か「なまめかしさ」を覚え、我が身の品の悪さと言うか修行不足と言うか聖なる雰囲気から遠く感じていた。S博士（お茶の水大、名誉教授）が事もなく疑問を解いてくれた。「エロスの神ですよ」と。だから女性は真剣に出産の無事や家内の平安を祈願していたのでしょう。これが又集落ごとに違う境界線を持っているのは矢張り同族以外の参加を避ける為でした。二つの男女の講を同時にしないのは聖なるキリストに対して厳しく身を律している証だったのでしょう。キリシタンの知恵にはサタンも顔負け・・・。

邑楽のキリシタンは今も私達の中に息づいて祈っていて呉れます。神様とご先祖様に感謝。